

埼玉県立大学研究開発センターシンポジウム 2022

開催形式：Web シンポジウムのオンデマンド配信（2月中旬～7月末日）

テーマ：その人らしく活躍できる「働き方」の実現を目指して

プログラム：基調講演「障害者就労の現状と今後の課題」朝日雅也（埼玉県立大学社会福祉子ども学科教授）／特別講演「働き方に係る国の施策動向―障害と女性を中心に」源河真規子（厚生労働省大臣官房参事官）／シンポジウム「障害者がその人らしく活躍できる職場・地域づくりを目指して」講演1「障害者就労の現状・課題とジョブコーチ・ネットワークの取組について」若尾勝己（ジョブコーチ・ネットワーク副理事長、東松山障害者就労支援センター代表）／2「障害のある人・ない人が共に働く場・地域づくりを目指した当法人の取組」山下浩志（障害者の職場参加をすすめる会事務局長）／3「誰もが安心して働くことができるまちづくりを目指したワーカーズコープの取組」須賀貴子（日本労働者協同組合連合会センター事業団埼玉事業本部埼玉西南エリアエリアマネージャ）／4「障害者就労に向けた作業療法士の関わり」臼倉京子（埼玉県立大学作業療学科教授）／5「農福一体のソーシャルファーム」新井利昌（埼玉福興株式会社代表）／6「障害者の就労支援への取組について」新船孝子（埼玉県産業労働部雇用労働課障害者雇用総合サポートセンター副課長）／パネeldiscussion／ほか

参加費：無料

参加登録方法：下記 URL から

URL <https://business.form-mailer.jp/>

fms/41b1434c187948

問い合わせ先：埼玉県立大学研究開発センター

✉ Research_c@spu.ac.jp

☎ 048-973-4362

FAX 048-973-4362

URL <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid848.html>

第28回日本母乳哺育学会教育委員会主催勉強会

日時：2月11日（土・祝）10:00～15:30

開催形式：Web 開催

テーマ：1か月健診のエキスパートになろう

プログラム：

【午前の部】 10:10～12:00

テーマ「専門外来にはどのタイミングでかかれればよいのでしょうか？」／講演「あたまの形がきになるのですが？（仮）」細野茂春（自治医科大学附属さいたま医療センター新生児科）／「このあごは消えますか？（仮）」馬場直子（神奈川県立こども医療センター皮膚科）／「耳の形が気になるのですが？（仮）」三上太郎（茅ヶ崎市立病院形成外科）

【午後の部】 12:30～15:20

テーマ「1か月健診と母乳支援」／講演「おっぱいだけで足りていますか？」滝元宏（東京都立荏原病院小児科）／「目が黄色いのが（黄疸）気になります」本田義信（いわき市医療センター未熟児新生児科）／「赤ちゃんが泣き止まなくて眠れません」宮貴子（オリブ山病院精神科）／ほか

参加費：日本母乳哺育学会会員 2000 円、非会員 6000 円

参加登録方法：下記 URL から

URL <https://jsbr1986.org/seminar/>

問い合わせ先：メドグラフィカ株式会社

✉ y.goto@medgraphica.jp

日本健康相談活動学会第19回学術集会

日時：3月4日（土）～5日（日）

会場：安田女子大学（広島県広島市）

テーマ：養護教諭の専門性でつなぐ健康相談・健康相談活動―実践と理論の往還を活かした心身のケア

プログラム：学会長講演「健康相談活動の取組と養護教諭の役割―子供を守るための連携・課題をもとに」宮本香代子（安田女子大学教授）／シンポジウム「学校における心のケア体制を見直すための、養護教諭の資質向上と組織のあり方」：基調講演「附属池田小学校事件から21年を経て―学校における安全管理の考え方と進め方」藤田大輔（大阪教育大学教授）／教育講演Ⅰ「災害を体験した子どもたち その理解と心のケア」藤森和美（武蔵野大学教授）／Ⅱ「健康情報の読み解き方：“インフォデミック”から身を守る」中山健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻健康情報学教授）／ほか

参加費：会員 5000 円、会員外 5500 円、学生 2000 円

参加申込：下記 URL から

URL <https://bit.ly/3FaSkWW>

問い合わせ先：安田女子大学教育学部児童教育学科

〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 66-13-1

✉ jahca19hiroshima@gmail.com

日本小児看護学会第33回学術集会

日時：7月15日（土）～16日（日）

開催形式：現地開催、オンデマンド

配信（～8月20日予定）

会場：パシフィコ横浜会議センター
（神奈川県横浜市西区）

テーマ：子どもたちの未来を見据え、今やるべきこと

プログラム：特別講演1「未来の子どものウェルビーイング（仮）」ドミニク・チェン（早稲田大学文学学術院・文化構想学部教授）／2「未来の人口統計と世界予測、統計から考える未来（仮）」林玲子（国立社会保障・人口問題研究所副所長）／教育講演1「子どもの発達の可能性と初期の相互作用（仮）」辻晶（東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構講師）／2「医療のケアがあっても安心できるインクルーシブ社会を目指して（仮）」内多勝康（国立成育医療研究センターもみじの家ハウスマネージャー）／シンポジウム1「広がり、子どもの笑顔の場（仮）」胡内敦司（厚生労働省子ども家庭局総務課課長補佐）、塩川亜紗美、熊谷智子（医療法人社団思葉会 MEIN HAUS 重症児児童発達支援・放課後等デイサービス管理者）／2「ICTの利活用と小児看護—未来を担う人の育みを考える（仮）」小川純子（淑徳大学看護栄養学部教授）、ウィリアムソン彰子（神戸大学医学部附属病院副看護部長）、監物佳子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）／ほか
演題・テーマセッション申込締切：2月12日（日）

参加申込：

【前期】6月16日（金）まで

【後期】7月1日（土）～8月20日（日）

参加費：

【前期】会員1万円、非会員1万2000円

【後期】会員1万2000円、非会員1万4000円、学生（前後期共通）

3000円

大会事務局：東邦大学看護学部小児看護学研究室

〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20

☎ 03-3762-9881（代表）

運営事務局：株式会社ユピア

〒456-0005 愛知県名古屋市熱田区池内町3-21

☎ 052-872-8101

FAX 050-3737-7331

✉ jschn33@yupia.net

日本家族看護学会 第30回学術集会

日時：9月9日（土）～10日（日）

開催形式：現地開催、オンデマンド配信（～10月15日予定）

会場：大阪大学コンベンションセンター、保健学科講義棟（大阪府吹田市）

テーマ：Dyadic Approach／もうひとつのいえづくり

プログラム：特別講演「こどもたちがつくるまち・西成」村上靖彦（大阪大学大学院人間科学研究科教授）／教育講演「家族療法から学ぶかわりのコツ」東豊（龍谷大学心理学部教授）／「遺伝と家族」酒井規夫（大阪大学大学院医学系研究科教授）／理事会企画30周年記念シンポジウムⅠ「家族内の関係性をめぐる研究方法を探る—研究デザインとデータ収集の工夫から学ぶ」／Ⅱ「もうひとつのいえづくりから見えてくる家族看護のいま」／国際的・学際的なオンデマンド講義「フィンランド発！対話型家族支援法“Let's Talk about Children”」Tytti Solantaus（児童精神科医・家族療法家、フィンランド国立健康福祉研究所名誉教授）／「さまざまな場で家族を測定する：What measurement do we need?」Kathleen J. Sawin（Child-

dren's Wisconsin, Nurse Scientist, ウィスコンシン大学ミルウォーキー校看護学部名誉教授）／「全国家族調査（NFRJ）からみた日本の家族」田淵六郎（上智大学総合人間科学部社会科学科教授、日本家族社会学会 NFRJ 委員会副委員長）／「家族法—親子関係に焦点をあてて」床谷文雄（奈良大学文学部教授、大阪大学大学院国際公共政策研究科名誉教授）／「文化を越境する家族看護—新生児 NP の視点から」エ克蘭ド 源稚子（Pediatric Medical Group of Tennessee、新生児専門 NP）／ほか

参加登録期間：4月3日（月）～7月31日（月）（予定）

一般演題登録期間・交流集会募集期間：2月6日（月）～4月28日（金）正午（予定）

大会事務局：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻小児・家族看護学教室

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

✉ jarfn30@gmail.com

運営事務局：株式会社ユピア

〒456-0005 愛知県名古屋市熱田区池内町3-21

☎ 052-872-8101

FAX 050-3737-7331

✉ jarfn30@yupia.net

URL <https://jarfn30.yupia.net/>

掲載情報は2022年12月1日現在のものです。最新の情報は主催者にお問い合わせください。

● ● ●

本欄へ掲載を希望する学会・研究会・講演会などのお知らせがありましたら、本誌編集室までお送りください。

✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp